

子どもの貧困と高校教育

子どものリアル+

社会と子どもたちの関わりを学校の視点から見る

2023年4月27日

大阪府立西成高等学校 校長 山田勝治

@不安に寄り添う政治の在り方勉強会

◆ 大阪府立西成高等学校

1974年創立

- 地元の願いにより創立した学校
- 地元に着し、地元との連携により大阪の地域社会に参画し、
地域社会を支える原動力となる市民を育成する学校
- 生徒のウェルビーイングを実現する学校
- エンパワメント・スクール（学び直し）
- 9時30分始業・定期考査なし・校内居場所カフェ
- 学びのセーフティネットとして、教育と福祉の連携

自己紹介



「西成高校を再生させた反貧困学習」(教育新聞)

<https://www.kyobun.co.jp/close-up/cu20210602/>

逆転人生「貧困の連鎖を断て！西成高校の挑戦」

2021年1月25日(月) 放送[総合] 第58回ギャラクシー賞選奨 受賞番組

https://www.nhk.or.jp/campaign/mirai17/kiji_manabitai_gyakuten.html

「あきらめへん～西成高生の卒業～」連載 朝日新聞デジタル

<https://digital.asahi.com/articles/ASQ3J52H8Q33PTIL01M.html>

自己紹介(参考)



◆ 山田 勝治(やまだ かつじ) 1957年生

- 大阪市西成区生まれ
- 西成高校に2005年教頭として赴任、
教頭4年＋校長4年
他校に4年転出。
2017年リバイバル登板、現在に至る。
西成高校校長11年め
NHK「逆転人生」に取り上げられる(2021年)



【山田勝治氏×松岡亮二氏】

教育格差の是正に学校が果たしている役割

<https://www.kyobun.co.jp/close-up/cu20210830/>

「周回遅れから先頭へ」(1)～(5)日本経済新聞「人間発見」連載 2022年6月

<https://www.nikkei.com/article/DGKKZO62076490X20C22A6EAC000/>

自己紹介



自己責任から自立支援へ

子どもの貧困は親世代の貧困

勉強嫌いを学校好きにする学校
自立をめざす学校

結 論

1

学校教育関係者として、気になること

2

• 不登校

- 自殺
- いじめ

• 教育格差

- 引きこもり
- 虐待

• 選択格差

- GIGAスクール
- Socirty5.0
- 主体的で対話
てな学び
- 個別最適化さ
れた学び

過去半世紀の 子ども事情+

3

・校内暴力時代

—対教師暴力・生徒間暴力
器物破損

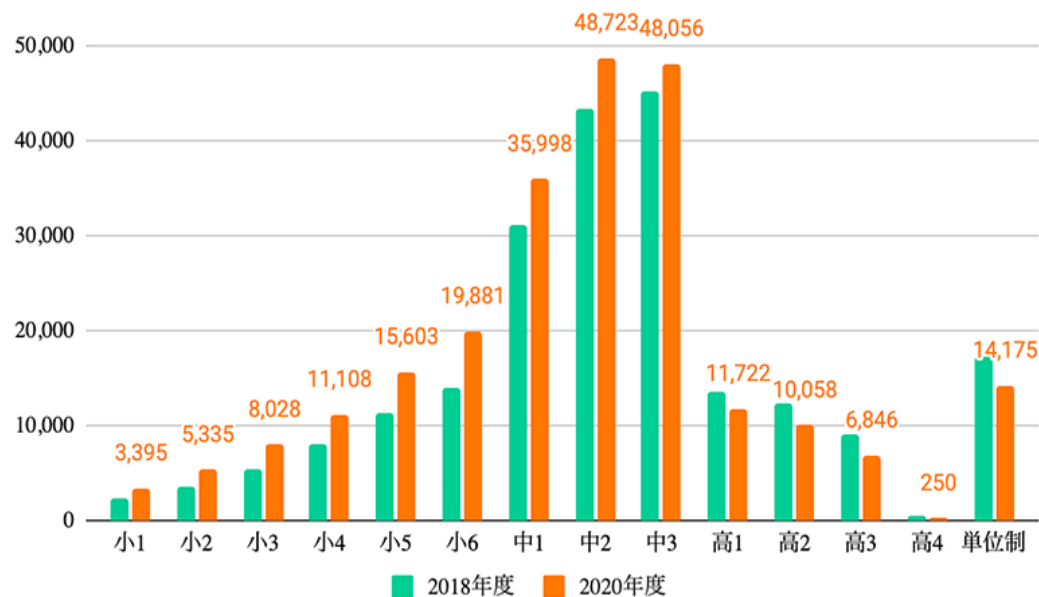
・いじめ時代—1990年代

・刑法犯少年

増加 1995年以降

・不登校

グラフで見る学年別不登校生徒数（2018→2020 年度比較）



様々な子ども若者をめぐる現象の根っ子は同じ

児童相談所での児童虐待相談対応件数とその推移

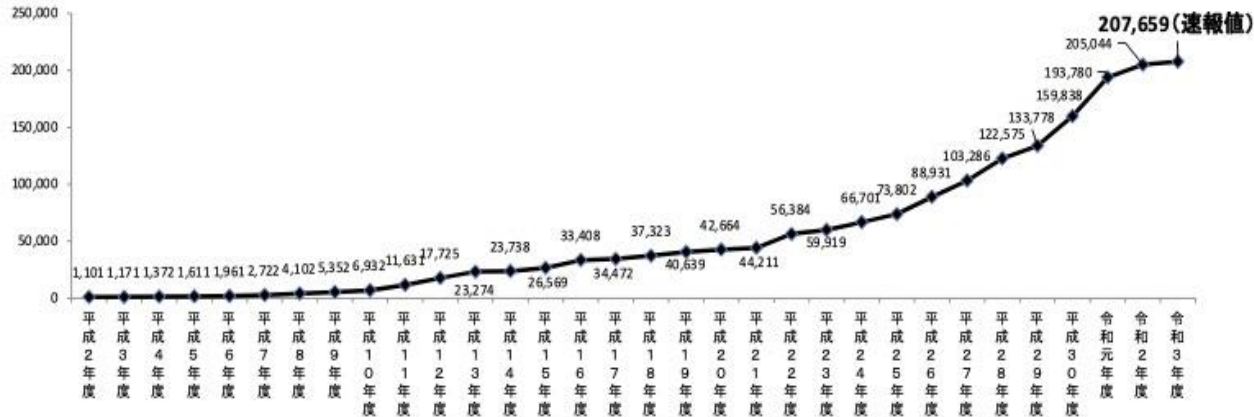
1. 令和3年度の児童相談所での児童虐待相談対応件数

令和3年度中に、全国225か所の児童相談所が児童虐待相談として対応した件数は 207,659 件（速報値）で、過去最多。

※ 対前年度比+1.3%（2,615件の増加）（令和2年度：対前年度比+5.8%（11,264件の増加））

※ 相談対応件数とは、令和3年度中に児童相談所が相談を受け、援助方針会議の結果により指導や措置等を行った件数。

2. 児童虐待相談対応件数の推移



年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度(速報値)
件数	44,211	注 56,384	59,919	66,701	73,802	88,931	103,286	122,575	133,778	159,838	193,780	205,044	207,659
対前年度比	+3.6%	-	-	+11.3%	+10.6%	+20.5%	+16.1%	+18.7%	+9.1%	+19.5%	+21.2%	+5.8%	+1.3%

（注）平成22年度の件数は、東日本大震災の影響により、福島県を除いて集計した数値。

3. 主な増加要因

- 心理的虐待に係る相談対応件数の増加（令和2年度：121,334件→令和3年度：124,722件（+3,388件））
- 家族親戚、近隣知人、児童本人等からの通告の増加（令和2年度：46,521件→令和3年度：47,948件（+1,427件））

（令和2年度と比して児童虐待相談対応件数が増加した自治体からの聞き取り）

- 虐待相談窓口の普及などにより、家族親戚、近隣知人、児童本人等からの通告が増加。

児童虐待対応件数

格差が濃縮される学校現場

5

- **関東圏**の教育社会学者研究者は、
「**高校（学校）は格差を固定化する**」役割であるエビデンスを探している
- **関西圏**の教育社会学者研究者は、
「**学校教育で格差を乗り越える**」方策の成功事例を探している

教育格差 + 選択格差 (格差の濃縮)

6

- 子ども本人に変更できない初期条件である出身家庭の社会経済的地位などの「生まれ」によって学力や最終学歴などの教育成果に差がある傾向

(龍谷大学 松岡亮二さん)

教育格差 + 選択格差 (格差の濃縮)

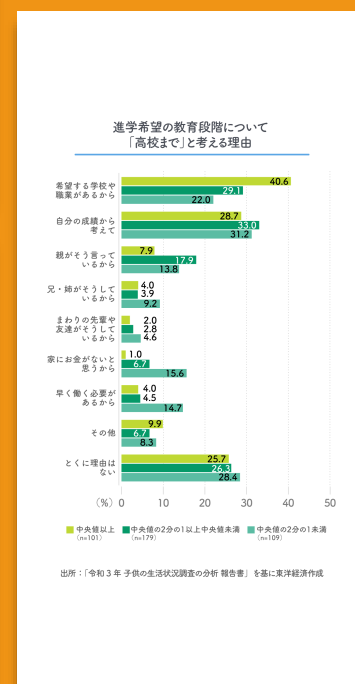
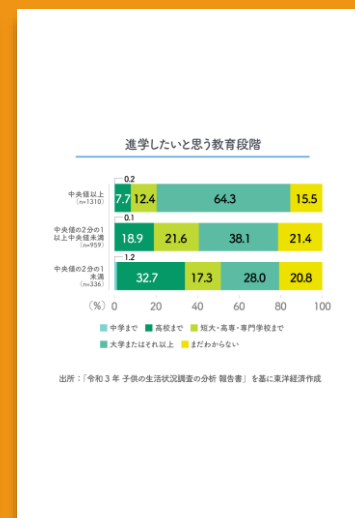
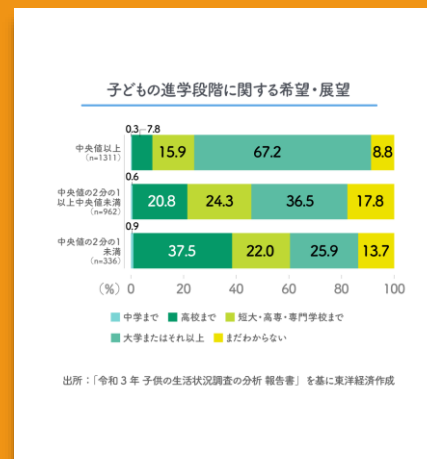
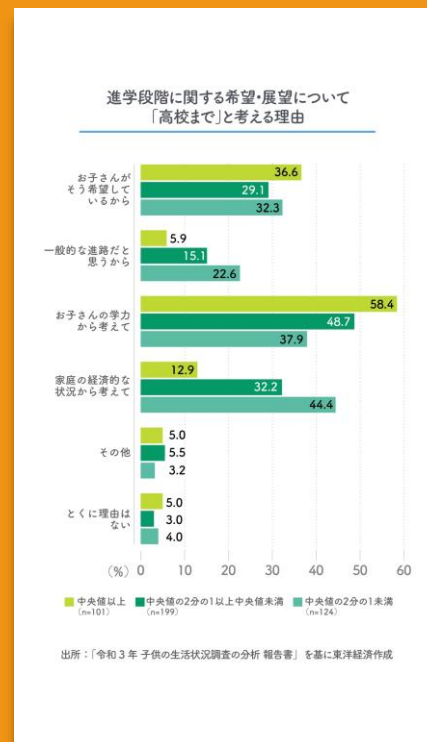
7

選択格差とは、人生の選択肢にすでに格差が存在し、社会における社会経済的地位と密接に関係している。

- 学力保障は選択格差を乗り越えるためのチカラになるのか？

教育格差 + 選択格差 evidence

○内閣府調査では、親が子の進学に対して「高校まで」と考える理由を聞いている。まず、「高校まで」を選んだ親は全体だと16.3%、
非貧困層では7.8%だが
貧困層では37.5%と高い。



教育格差 + 選択格差

evidence②

9

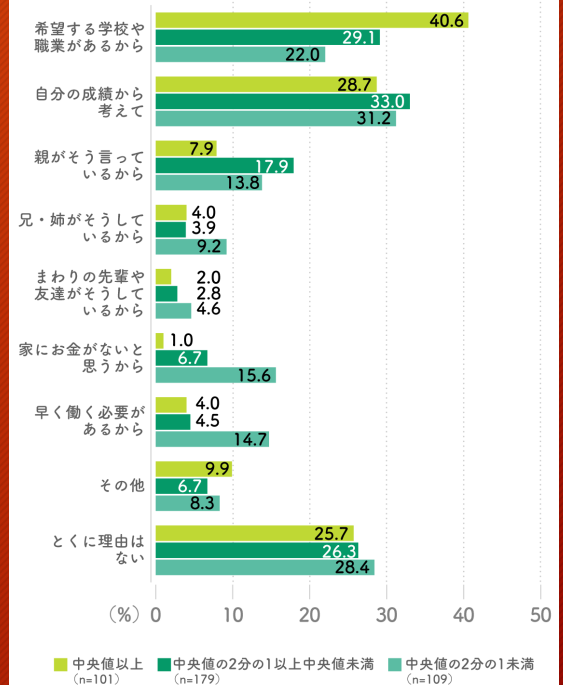
高校まで進学を希望(理由)

「家庭の経済的な状況から考えて」
非貧困層の親は12.9%だが、
貧困層では44.4%である。

子ども自身

「家にお金がないと思うから」
非貧困層は1.0%、
貧困層では15.6%
「早く働く必要があるから」
非貧困層で4.0%
貧困層だと14.7%

進学希望の教育段階について
「高校まで」と考える理由



出所:「令和3年 子供の生活状況調査の分析 報告書」を基に東洋経済作成

生徒をエンパワする学校

12

=多様性に富み、公平性を大切にする、そして
地域に立脚した学校

教育と福祉の連携→緩く

申請主義の福祉行政と向上性重視の教育

予防支援の考え方

生徒のWell -Beingを実現する学校

育てたいのは・・・

13

育てたいのは **存在価値** 自信+勇気

卒業率 90%
進級率 (1→2年) 94%

内定 100%
1年後離職 10%以内

コミュニティZone
地域の力で
生徒をインパフする
↓
学校運営
協議会
Aダッシュ、大阪大学
大阪公立大学、とがりカフェ

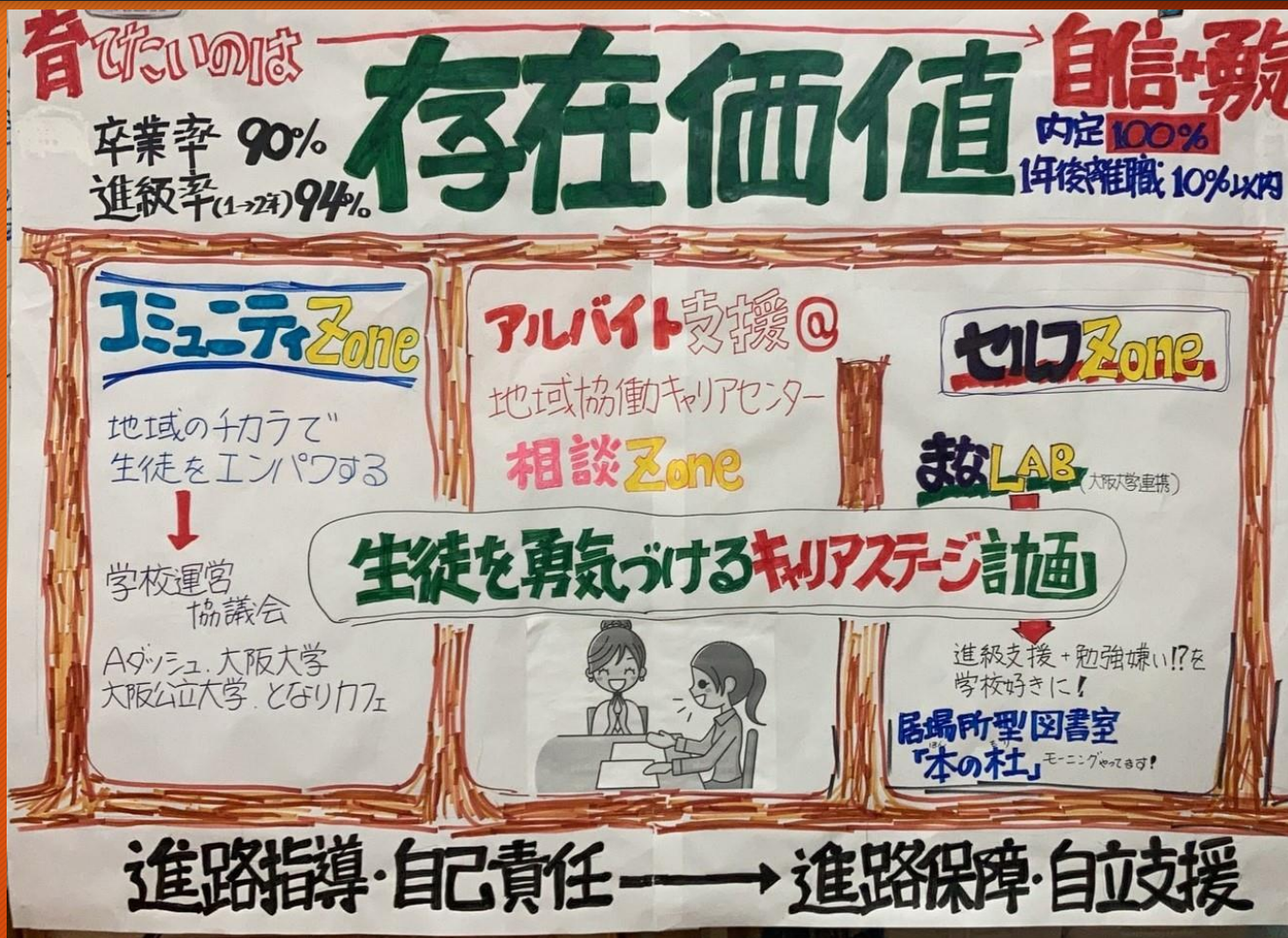
アルバイト支援@
地域協働キャリアセンター
相談Zone

セレクトZone
まなLAB (大阪大学連携)

生徒を勇気づけるキャリアステージ計画

進級支援+勉強嫌い!?を
学校好きに!
居場所型図書室
「本の杜」 モーニングカフェあり!

進路指導・自己責任 → 進路保障・自立支援



子ども権利条約と学校現場



- **基本理念(1)命を守る!**
- **「生徒支援委員会」**
- 毎週金曜日午前8時45分から45分間（0限目）@校長室
- 気になる生徒情報共有と方針確定協議
- （不登校・虐待・ネグレクト・家出・授業料等の滞納など）
- 校長・教頭・首席（3名）生徒指導課長・進路保障課長・教務学習課長・就労支援G長・人権教育室長・同外国ルーツ生徒担当・SSW・CC・校内居場所カフェマスター・学年主任・自立支援教育室長・養護教諭
- 生徒支援室長 2018年新設

教育と福祉の連携